

Title	生命保険の市場と競争力の源泉
Sub Title	
Author	中村篤志(Nakamura, Atsushi) 青井倫一
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1997
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1997年度経営学 第1362号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001997-1362

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No. 1362

学生氏名

中村 篤志
(明治生命保険相互会社)

主査 青井 倫一
副査 鈴木 貞彦
中村 洋

所属

青井 倫一 研究室

生命保険の市場と競争力の源泉

本論文は、「生命保険業界では『販売チャネル数こそが競争力の源泉』であるといわれてきた。しかしながら、『生命保険市場が成長期から低成長期へ移行するのに伴い、競争力の源泉は複数化し、かつ市場特性により個別化しているのではないか』。その結果、生命保険会社と市場間のギャップが広がっているのではないか」という問題認識のもと、生命保険市場を取引経済主体(顧客)と保険サービス機能(商品)の2つの軸で、6つの市場(ミニ市場)にセグメントし、統計的手法を用いて分析している。

パネル分析の結果、成長期の競争力の源泉である販売チャネル数に加え、個人・死亡保障市場では販売チャネルの質・企業交渉力、法人・死亡保障市場では企業交渉力、個人・貯蓄市場では資産運用力、法人・貯蓄市場では資産運用力・支払能力、個人・第3分野市場では企業交渉力がそれぞれ新たな競争力の源泉として認められた。

また、本論文では、こうした環境変化を踏まえ、生命保険会社が新たな戦略を検討する際の判断材料を提供するため、ミニ市場間の範囲の経済性の計測、さらには新戦略策定に伴い生じる問題点とその対応策について提言を行なっている。